

しまなみだより

第16号 2021年3月発行

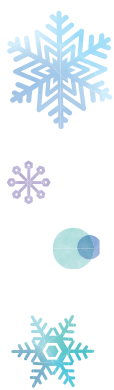


陽春のみぎり、皆様におかれましては健やかに過ごしのことと存じます。平素より本学の教育にご理解とご協力を頂き誠にありがとうございます。

今年は例年のない寒波到来で三原キャンパスも雪景色となる日がありました。積雪の日は新型コロナウイルス感染症の集中対策期間中でもあり、大学は静寂な空気に包まれてとても幻想的でした。さて、3月23日の卒業式には、4年生55名が本学を巣立っていきました。これから益々、看護職への期待が高まる中で、一人ひとりが貴重な存在となり活躍してくれることを期待しています。

今号では、令和2年度後期の学生生活の様子をお知らせします。

(看護学科広報係)



積雪の大学テニスコートと沼田川



教職員宿舎前



Web 看護学科キャンパス体験を開催しました!

高校生を対象としたWeb版キャンパス体験を3月に開催し、「解剖学(看護特論)」、「急性期看護実習」など5科目の授業を公開しました。撮影には在学生の協力があり、生き生きとした授業の雰囲気や伝わる動画となりました。有難うございました。現在もホームページで公開しています。是非、ご覧ください。

(キャンパス体験担当)



母性看護方法論Ⅱ



ヘルスアセスメント



解剖学(看護特論)



ホームページへの
移動はこちらから!



1～4年生の授業紹介

1年生 日常生活援助方法論I(共通基本技術)

1年次の第3クォーター・第4クォーターに開講される「日常生活援助方法論I」は、日常生活行動の意味を看護の視点から理解し、日常生活行動に関する看護技術の科学的根拠を理解した上で実践できるように学修していきます。

今年度は、対面授業とオンライン授業を併用したハイブリッド型形態で授業を実施し「ベッドメイキング」、「移乗・移送」は感染対策を講じた上で、対面での演習を行いました。「移乗・移送」では、車いすとストレッチャーを使用して看護師役と患者役を体験しました。看護師役では、ストレッチャーや車椅子の取り扱い、転倒予防、安楽な援助に必要な基本的なポイントを押さえることができました。また患者役を通じて、移送時の振動、スピードの違いによる感じ方、声掛けの大切さなど援助を受ける患者の気持ちを学ぶことができました。

1つ1つの看護技術の科学的根拠を理解し、安全・安楽・自立を目指した看護技術を学修して欲しいと思います。

(三宅由希子)



ベッドメイキングの様子



ストレッチャーの移送を行いました



スライダーを使用したストレッチャーへの移乗



車椅子で段差の昇降の介助を経験しました

2年生 精神看護学概論

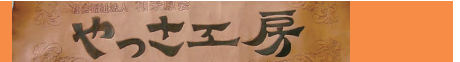
2年次後期の精神看護学概論では、地域保健医療活動についても学修しています。精神障害をもちながら地域で自分らしく、生き生きと生活するための社会資源の一つに「就労移行支援B型事業」があります。今回は、やっさ工房で精神保健福祉士として活躍されている瀬野さんをお招きし、オンライン特別講義をしていただきました。やっさ工房は、心にいろいろな重荷を抱えながらも、働きたい!仲間が欲しい!と願っている人たちの共同作業所です。講義では、施設の紹介や実際に行われている支援や利用者さんの声などを紹介していただきました。



精神保健福祉士の瀬野さんがオンライン授業をしている様子

地域包括ケアシステムが構築され、精神科も病院中心の看護から地域中心へと確実に変化しています。人それぞれに過去、現在、未来があります。過去に起こったことや体験したこと、現在起こっていることは十人十色でしょう。だからこそ、精神看護というのは、色々な障害があっても、その人の未来へ向けた新しい道と一緒に創る創造する力が大切だと感じています。4年次の精神看護実習で実際に利用者さんと一緒に作業をする体験実習もありますので、講義の知識が実習の中で結びつくと思います。患者さんに対して何ができるのだろうと絶えず考えることができる学生さんになってもらいたいと感じています。

(井上 誠)



3年生 急性期看護実習

急性期看護実習(3年次後期科目)は、COVID-19感染予防の観点からオンラインと学内対面式を組み合わせ実施しました。学生は、手術を受ける患者の事例から看護計画を立案し、術後患者の観察や全身清拭、退院指導などの看護実践を行いました。これらの看護実践では、学内対面式とともに、ライブ配信(学生が自宅から教員に観察項目や手順を伝え、教員が学生の指示通りに実演)を活用しました。また、学生は、県立広島病院の4部署の臨床看護師から専門分野の看護実践について解説を受けるとともに、様々な質問をすることで看護実践能力の幅を広げていました。学生からは、「学内実習とライブ配信があったので技術面のイメージがついた」「どの看護師さんにもたくさんの質問に具体的に答えてくれ、自分たちの疑問点が解消された。」などの感想がありました。例年とは異なる学修環境のなかで学生たちは、周術期にある患者・家族の看護に真剣に取り組み学びを深めていました。

(中垣和子)



学内対面 術後患者の全身清拭

4年生 卒業研究



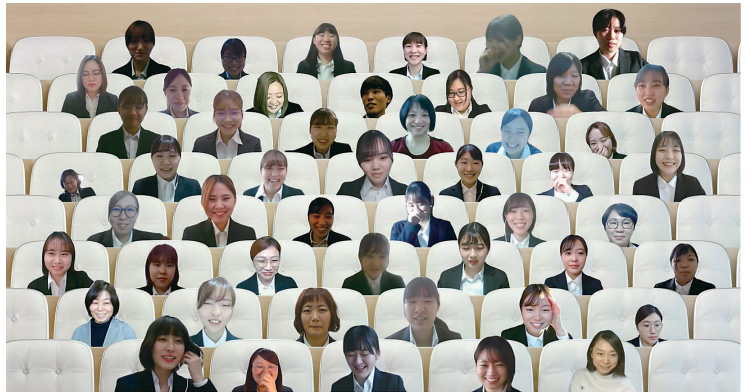
卒業研究では、看護学領域における研究テーマを自ら設定し、研究計画立案、文献検索、実験・調査、論文作成、発表・報告等を実際に行うことを通して、一連の研究過程を学びます。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、全員で集まって研究テーマ領域を決定することもできず、文献を利用するための図書館も利用できない期間や入館制限があり、12月21日の「卒業研究報告会」もオンラインで行われました。例年と違う困難な状況の中でも、担当教員に助言を受けながら主体的に研究活動を行い、学生主体で運営する素晴らしい卒業研究報告会でした。

卒業研究報告会で発表した内容を「卒業研究論文集」としてUSBで配布いたします。ご家族の皆様も是非ご覧になってください。
(伊藤良子)



総合同会の河田小優理さんと小松虎ノ介さん



オンライン卒業研究報告会の様子

サークル紹介 走り隊



江田島で行われたみかんマラソン

走り隊は走ることを楽しむサークルで、週に2回(月曜日・水曜日)30人程度で活動しています。学科や学年の隔てがなく、仲がいいサークルです。学校近くの沼田川の土手で好きな速さで好きな距離を走って練習しています。今年は新型コロナウイルス感染症の影響でほとんどの大会は開催中止となってしまいましたが、これまでの練習を生かして、いろいろなマラソンに参加し、走りたい距離に挑戦しています。希望者は12月に開催される沖縄那覇マラソンでフルマラソンにも挑戦しています。時々、リレーなどのレクリエーションや運動会をしたりサークル終わりに花火をしたりして楽しく過ごしています。その他、夏にはキャンプ、冬にはスキー・スノボなど、いろいろな活動をしています。

(2年生 齊藤志帆)



広島大学で行われたリレーマラソン。チームでたすきをつなぎながらリレー形式で走り、決められたコースを制限時間内に何周できるかを競うマラソンです。

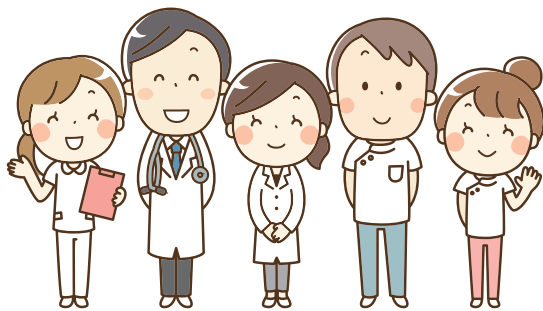




2018年10月に本学に着任しました。岡山県出身で、岡山から新幹線で通勤をしています。当初は新幹線通勤にワクワクしていましたが今は慣れ、shinkansen-wifiを使いながら通勤時間を有効に過ごしています。成人看護方法論、慢性期看護実習、卒業研究などを担当しています。学修に一生懸命取り組む学生たちの姿にいつも感動しています。

患者の健康認識や行動変容に関心があり、今はアルコール性肝疾患患者を対象にし、断酒に向けた支援について研究をしています。飲酒のような長年培った生活習慣を変えるのは容易ではなく、健康維持のために看護者がどのように介入すればよいか医療者と共に考える活動をしています。

看護の素晴らしさ、難しさ、奥深さを学生たちと語り合い、これから出会う患者のために自分自身を共に磨いていくことができる時間を大切にしていきたいと思っています。



「成人看護方法論」模擬患者演習の風景 (2019年6月撮影)

卒業生の現在

新型コロナウイルス感染症が流行する中、看護学科の卒業生の多くが医療現場に就職し活躍しています。独立行政法人国立病院機構東広島医療センターに就職した看護師1年目の堀鈴奈さんと看護師3年目の津村直樹さんは同じ病棟に配属されています。おふたりから現在の様子についてお知らせ頂きました。



東広島医療センターで活躍中の津村直樹さん(左)と堀鈴奈さん(右)

堀鈴奈さん「就職時は、看護師としてやっていけるのかという不安と頑張ろうという気持ちで、あっという間に過ぎていきました。それぞれの患者さんを正確にアセスメントして必要な看護を実践することの大切さを実感しています。点滴や導尿など、いろいろな看護技術ができるようになったことを自信にして、日々頑張っています。」

津村直樹さん「後輩支援をすることが増えてきました。知識があることは自信を持って伝えられますが、まだ自信のないところもあります。しかし、その気づきのおかげで自分の勉強にもなり、成長にもつながったと実感しました。目標は患者さんに信頼される看護師、プライベートの目標はブリを釣り上げることです！」

母校より益々のご活躍を応援しています。

(吉田和美)

